

立位姿勢の解釈

六地蔵総合病院 リハビリテーション科

渡邊裕文

人類の誕生はおおよそ 800 万～500 万年前で、アフリカの類人猿のなかの一部から人類へ進化したものと考えられている。類人猿はおそらく何らかの理由で、二足で立ち（二足直立）二足で移動（二足歩行）することを強いられてきたと考えられている。この理由には多くの説があり、明確な理由はいまだはっきりしていない。このなかで従来から支持されているもっとも有名な説はサバンナ説である。樹上生活をしてきた一部の類人猿が、気候の変化により草原のサバンナで生活するようになり、樹上生活で培った両手の機能や股関節の可動性が、草原のサバンナでの生活で二足直立歩行へと進化を遂げたという説である。このように明確な根拠がないながら多くの説が存在し、ヒトの二足直立、二足直立歩行の進化を説明されている。しかしどんな理由であれ二足直立したことでヒトは、前脚を空間で自由に使えるようになり、また頭頸部のアラインメントに変化が生まれ発声することができるようになり、コミュニケーションをとることで、現在の文明を発展させてきたことは紛れもない事実である。このようなことを実現するために、当然中枢神経系も進化、発展してきたことは言うまでもない。特に両上肢や頭頸部を空間で自由にコントロールするためには、その土台である体幹や下肢を準備的に制御する必要性があった。そのため随意的な側面と準備的な側面の両方を、ほぼ同時に制御することを中枢神経系は求められることとなった。加えて実際に行った運動（姿勢）の情報をもとに、その運動や姿勢を瞬時に修正する必要性があった。これらを実現するように、現在のような中枢神経系が成り立ってきたことが考えられる。

この重力環境下でヒトが二足で立っているということ、このヒトにとって最も特徴的な姿勢を維持するために、ヒトの中枢神経系は様々なことを実行していると考えられる。言い換えると、ヒトの二足直立の状態を観察すると、中枢神経系がどのように働き、どのように関与しているか、などの解釈や推察が可能であり、このようなことを考えていくことは中枢神経系に障害をもつ患者様を診ていく我々にとって、重要なことと言える。

本セミナーでは、立位姿勢の観察、推察、解釈していく視点について、可能なら実技を交えて解説していくこととする。